

2018年5月のブルーベリー農園（東広島市豊栄町）

ブルーベリーの花が4月下旬から満開となり、ミツバチが飛び交い受粉を進めてくれて5月下旬には結実して実が日に日に大きくなっていく。30度を超える日もあ

って暑い中の作業はもっぱら遅れている枝の剪定が中心。人の腕ほどある枝（幹と違っていい大きさ）を切ってみると高さが3mもある。切った枝の野焼き、草刈りなどを並行して行いながら初夏へと季節が移っていく。いい実が安芸の郷に納品できるように手入れが続く。



5月12日。ブルーベリーの枝の剪定を行う間、耳に聞こえてくるはブーンというミツバチの羽音。



5月15日。夕方車で帰る途中、田んぼと法面を刈った草を焼く風景に出会う。



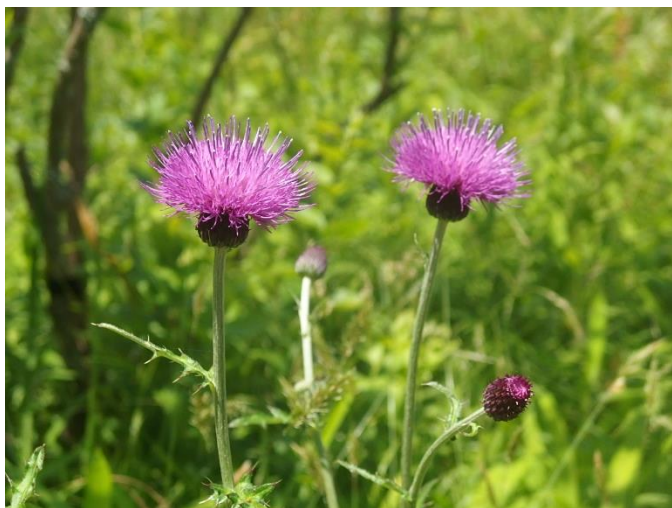
5月13日。4月半ばから畑に植えたアイリスがいろいろ咲いたが、背の高いタイプのジャーマンアイリスが咲き始める。



5月19日。風に揺れる満開のエゴノキの花。



5月27日。エゴノキの花が散るとすぐそばにあるハコネウツギが開花する。



5月27日。山のブルーベリー畑のアザミ。今年は少し少ないよう。



5月30日。鋸で剪定したブルーベリーの太い枝の先にはもう大きな実がたわわになっている。連休中には白い花の状態だった。



5月27日。切ったブルーベリーの枝を野焼きする。じいっと火の番をする息子。炎や煙の揺らぎを楽しんでもいる。



5月27日。1月に古くなったので根元から全部切ったブルーベリーの下からたくさんのシュートが出てきた。間引いて太くて丈夫そうなシュートを残す。秋には花芽を付けて来年は収穫可能となる。



5月30日。農園の一番上の畑のブルーベリーの剪定を続ける。

2018年5月30日
社会福祉法人安芸の郷 理事長 遊川和良